

内容	分析指標	分析方法と計算式
成長性 分析	売上高 増減率	<p><計算式></p> $\text{売上高増減率} = \frac{\text{当期売上高}}{\text{前期売上高}} \times 100\%$ <p>売上高の増減で成長性を測定する指標。</p> <p>成長を示す最も分かりやすい数値が売上であるため、売上の変化で成長性を求めるこの指標は最もよく利用される。決算期毎の比較や同業他社との比較も大切だが、マーケット規模の増減率と比較することも重要である。</p>
	経常利益 増減率	<p><計算式></p> $\text{経常利益増減率} = \frac{\text{当期経常利益}}{\text{前期経常利益}} \times 100\%$ <p>経常利益の増減で成長性を測定する指標。</p> <p>売上の増加に伴って経常利益も増加する確立が高いため、その関係に着目して成長性を測定することができる。成長に伴う財務バランスの改善もこの指標に反映されることになる。経常利益の増加は、必ずしも企業規模の拡大によるものではなく、経営の合理化によって達成されることもあるので、他の指標も利用しての判断が必要になる。</p>
	有形固定資産 増減率	<p><計算式></p> $\text{有形固定資産増減率} = \frac{\text{当期総資産}}{\text{前期総資産}} \times 100\%$ <p>貸借対照表の有形固定資産の増減で成長性を測定する指標。</p> <p>設備投資は企業成長のベースともいえる面があり、有形固定資産の推移でそれを推定することができる。同業他社が行なっている程度の設備投資を実施しなければ、当面はともかく、長期的に見ると成長を続けることができなくなる懸念がある。</p> <p>しかし景気の低迷が続く今日では、むしろ設備投資については、安全性との関連で検討する必要がある。</p> <p>世界的規模での経済危機が発生した 2008 年度夏迄にこの値が大きく増加したにも関わらず、この時期以降に売上高利益率や経常利益率が大きく減少している会社の経営状態には、注意を払う必要がある。</p>